

第 I 部 事業概要、計画達成状況および今後の取組

i. 「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の事業概要

平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に岡山大学の提案「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が採択された。これを受け、岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が中心となり、「循環型人材育成進化プラン」を遂行し、質の高い女性研究者の雇用・育成と、その持続性を図る仕組みを構築するモデルを「学都・岡山大学」から発信してきた。以下は事業の詳細である。

I - i - 1. 計画構想

(1) 女性研究者増に関する具体的な取組

本学は、戦略的・体系的な改革を目指して「意識改革への挑戦」、「サポート体制の充実」および「組織改革の実質化」の 3 本の柱を有機的に連携させ、本学女性研究者の雇用率が低い理系に焦点を当て、下記の「循環型人材育成進化プラン」を実行し、必要なシステムを整備する。

- 進化プラン「研究サポート体制」：女性研究者のニーズに対応すべく、人材登録バンクを設置・活用し、必要とする女性研究者ごとに研究サポートグループを構築する。
- 進化プラン「雇用」：ウーマン・テニユア・トラック教員制度を新設（年 3～5 名採用予定。女性は出産・育児等特有の問題を有することから、柔軟な勤務体制）する。
- 進化プラン「持続性」：研究サポートグループに参加した大学院女子学生はウーマン・テニユア・トラック教員の候補生となり、かつテニユア教員に採用された女性研究者はメンター教員として次世代の女性研究者の人材育成に関与（次世代の女性研究者の循環型人材育成保証）するシステムを構築する。

なお、本進化プランをスムーズに推進するため「システム改革支援室」を新設するとともに、メンタルサポートの相談窓口の設置のほか、サロン運営およびネットワークシステムの構築等による情報交換や、意識啓発・広報活動を実施する。

(2) 期待される効果

研究サポート体制の定着やウーマン・テニユア・トラック教員制度の導入等により、質の高い持続性のある女性研究者の雇用・育成が保証されるシステムが整備され、質の高い女性研究者（教員）が定着・増加し、本学の発展に大きく貢献することが期待される。

I - i - 2. 実施体制および実施内容

本事業の実施体制の概略を図 1-1 に示す。本事業の進化プランをより有機的・機動的・効果的に推進するために、新たに 4 つの部門を男女共同参画室に設けた。すなわち、「企画・統括部門」、「環境整備・支援推進部門」、「広報・意識啓発推進部門」、「次世代女性研究者育成推進部門」である。さらに、ウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員制度に関する業務をスムーズに遂行するために、計画構想における「システム改革支援室」に代わり、「WTT 業務推進室」を新たに設けた。図 1-2(a)に男女共同参画室組織図を示す。さらに推

第 I 部 事業概要, 計画達成状況および今後の取組
 i. 「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の事業概要

進体制の整備に着手し、岡山大学男女共同参画基本計画（第IV部 i-1（1）参照）を策定し、学長を委員長とするダイバーシティ推進委員会を設置し、全学的取組を推進した(図 1-2(b)参照)。図 1-3 には、実施内容の概略を示す。

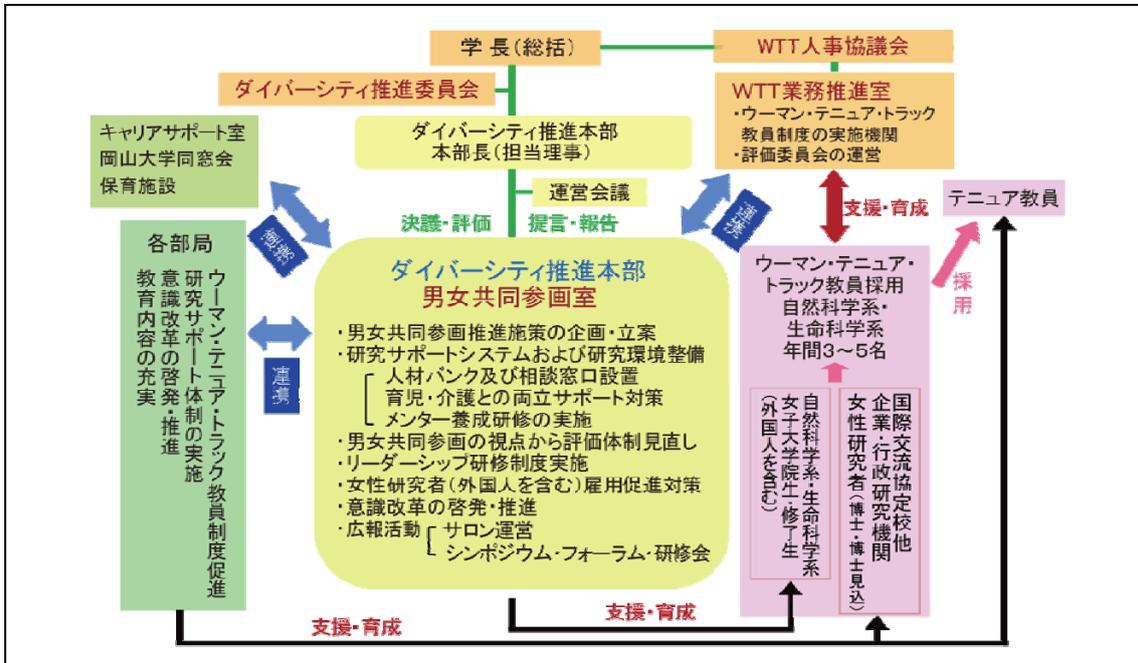


図 1-1 実施体制

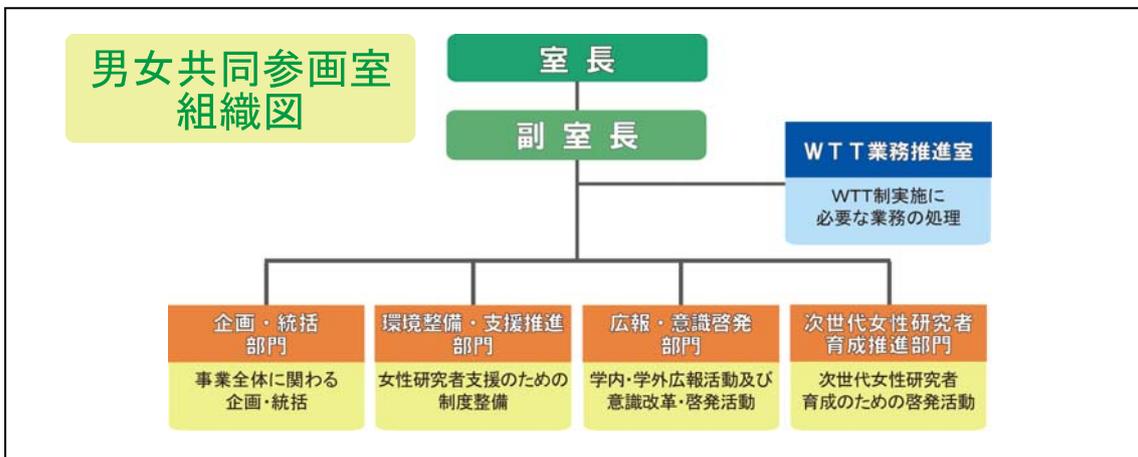


図 1-2(a) 男女共同参画室組織図:部門体制

推進体制の整備

平成23年3月に岡山大学男女共同参画推進基本計画を策定しました。推進体制整備の一環として学長を委員長とするダイバーシティ推進委員会を設置し、全学的な取組を進めています。

【基本方針】

1. 教育・研究および就労における男女の均等な機会の保障
2. 教育・研究および就労と生活との両立支援
3. 男女共同参画の視点に立った人材育成
4. 男女共同参画に関する意識改革
5. 男女共同参画に関する取組における地域社会との連携

図 1-2(b) 推進体制の整備概要

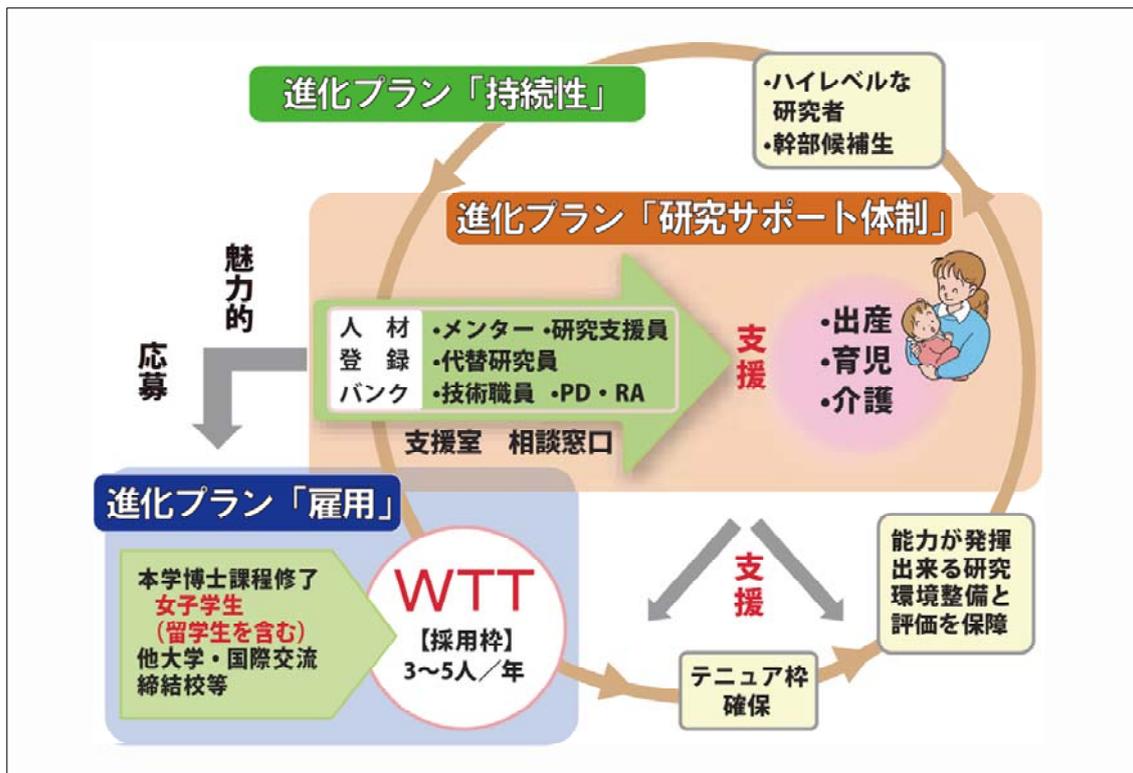


図 1-3 事業実施内容の概略

I-i-3. ミッションステートメント

(1) 実施期間終了時における具体的な目標

- ① 人材登録バンクの充実等により、女性研究者への研究サポート体制を確立する。
- ② ウーマン・テニユア・トラック教員制度を導入し、本事業期間中で 6~10 名の博士学位取得後の女性若手研究者の採用枠を設ける。
- ③ 3 年後には本学の自然科学系の女性研究者の数を現在より 30%増を目指し、10 年後には同女性研究者の割合 20%とすることを旨とする。

(2) 実施期間終了後の取組

- ① アンケート調査の結果の分析や、評価委員会（学外者を含む）における評価結果を踏まえ、女性研究者への研究サポート体制の見直しを行う。
- ② 女性研究者の採用状況等を踏まえ、ウーマン・テニユア・トラック教員制度の見直しを行う。
- ③ 女性研究者の裾野拡大を図るとともに、研究力の高い女性研究者、管理職を任せられる女性研究者が数多く輩出されるよう、循環型人材育成進化プランを持続的に展開する。

(3) 期待される波及効果

本計画は、質の高い持続性のある女性研究者の雇用・育成を保証しようとするものであり、本計画の研究サポート体制やウーマン・テニユア・トラック教員制度は、他大学においても当該大学の实情に即して適用可能なものである。

I - ii. 計画構想の達成状況

I - ii - 1. 事業推進の「仕組み」の整備

男女共同参画室の室員構成を強化するとともに、新たに（4 部門+1 推進室）体制とし、機動的な業務推進・責任体制の整備、有機的連携の強化を図ることができた。また、学長を委員長とするダイバーシティ推進委員会を設置し、岡山大学男女共同参画推進基本計画の確実な目的達成を目指す体制が名実ともに整備された。

I - ii - 2. 研究サポート体制の整備

- (1) 研究支援員事業を整備し、女性教員の研究継続の支援体制を整え、研究補助を行う研究支援員の配置を継続的に行った。
- (2) 研究支援員候補となる人材に関する情報を管理するために、人材登録バンクを設置し、充実を図った。
- (3) メンタリングに関するセミナー等を実施して意識啓発事業を行うとともに、既にメンター制度が整備されているテニユア・トラック関係教員の協力を得て、本学で新規に採用される教員等に対するメンタリング制度導入に向けた検討を行った。
- (4) 若手女性教員を対象とした研究スキルアップ講座を定期的実施した。
- (5) 女性研究者が仕事と家庭・子育て・介護等の両立をスムーズに行うために、心理学な側面や情報提供による支援を目的に女性サポート相談室を設置し、相談員を配置した。
- (6) 岡山大学保育所「なかよし園」の整備、学童保育所「かいのき児童クラブ」、「ますかつと病児保育ルーム」が開所された。また、ベビーシッター育児支援事業も整備された。
- (7) 在宅研究支援システムの整備を行い、学外（自宅等）から大学メールシステムへのアクセスおよび岡山大学の主要な電子ジャーナルへのアクセス・閲覧が可能となり、在宅での研究効率の大幅な改善を計った。
- (8) おかやま子育て応援宣言をし、「おかやま子育て応援宣言企業」として、岡山県に登録し、「おかやま子育て応援宣言企業」岡山県知事賞を受賞した。
- (9) 労働者の仕事と子育ての両立を積極的に支援する「基準適合一般事業主」（子育てサポート企業）に認定され、次世代認定マーク「くるみん」を取得した。

I - ii - 3. 雇用システムの整備

- (1) 岡山大学ウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員制度が整備され、第Ⅰ期 4 名（平成 22 年 4 月採用）、第Ⅱ期 3 名（23 年 4 月採用）、第Ⅲ期 4 名（予定：24 年 4 月採用）計 11 名の若手女性教員が採用され、テニユア教員を目指し、教育・研究をスタートさせた。

- (2) WTT 教員のメンタリング制度、中間・最終評価制度等の整備が行われた。
- (3) 平成 23 年度にスタートした文部科学省科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業（機関選抜型）」に選定された。
- (4) 「テニュアトラック普及・定着事業（個人選抜型）」に 5 名が選定された。
- (5) WTT 教員の出産・育児等による研究支援のために、メンターを中心とした WTT 教員の研究サポートグループを組織し、支援体制を充実させた。

I - ii - 4. 持続性システムの整備

- (1) 次世代女性研究者育成推進事業として、中学校、高等学校との共催による自然系分野における研究紹介事業「おかやまサイエンス・トーク」を、ウーマン・テニュア・トラック教員と大学院生の協力により、現地校へ出向き開催した。
- (2) 岡山大学オープンキャンパスに参加し、“理系の魅力”を女子高校生に理解してもらうことを目的とした、ポスター展示・説明および相談会を、理系の学部生、院生の協力を得て開催した。
- (3) 男女共同参画の視点に立つキャリア教育科目として、教養教育科目：主題科目を、平成 23 年度より開講した。
- (4) 理系女子を対象に、大学院への進学、研究職への進路意欲の向上を図る目的で、講演会等を開催して、意識啓発を推進した。

I - ii - 5. 意識啓発活動および広報活動

- (1) ニュースレターの定期的発行、ニュースレターラピッドの発行、男女共同参画推進に関するアンケート調査、女性研究者支援に関するニーズ調査、理系大学院生の研究生の実態およびニーズ調査、女性のための施設・設備の整備状況に関する調査等を行い、教育・研究および就労環境の整備・促進に供した。
- (2) 定期的に交流サロン、管理職セミナー、シンポジウム等を開催し、意識啓発を推進した。
- (3) 第 3 回中国四国男女共同参画シンポジウムを主催し、支援ネットワークの強化を図るとともに、中国四国地区国立 10 大学の学長宣言「中国・四国地区国立大学男女共同参画推進のための共同宣言」を行い、地区内における大学間の相互交流と連携を進めることを誓った。

I - iii. 実施期間終了後の取組み

本学では、平成 21～23 年度にわたり「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」による「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」を男女共同参画室が中心となって実施してきた。進化プラン「雇用」の取組の一つであるウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員制が、平成 23 年度「テニユアトラック（TT）普及・定着事業」に選定されたことを受け、平成 24 年度からは、「TT 普及・定着事業」の実施と「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の継続実施、そして広く男女共同参画推進のための意識啓発活動を着実に実施していく予定である。「TT 普及・定着事業」により WTT 制を実施することで、女性研究者の雇用の促進と安定した雇用の確保を図るとともに、「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の継続実施による女性研究者の育成・支援・就業環境の整備を発展させていく計画である。

女性研究者の育成と支援としては、この 3 年間の活動を大学独自の取組として発展させ、人材登録バンクを活用した「研究支援員事業」や WTT 教員の教育資質の向上を目的の一つとしている「おかやまサイエンス・トーク」の実施等に力を注ぐ。

男女共同参画室は、これらの新たな事業展開とその確実な遂行のため、これまでの 4 部門・1 推進室制から 4 部門制へと移行し、各部門の担当業務・名称を見直すこととした。

平成 24 年度のダイバーシティ推進体制を図 1-4 に示す。

ダイバーシティ推進体制（H24.4.1～）

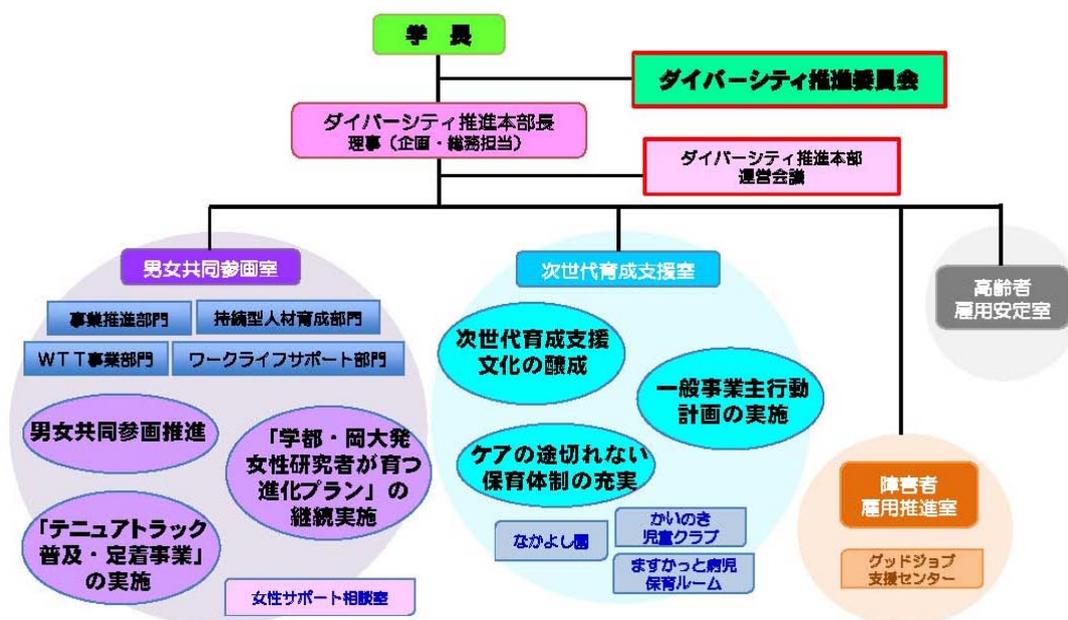


図 1-4 平成 24 年度以降の実施体制（平成 24 年 2 月現在）